

## 独思録：「ムバラク大統領辞任」(2/13)

今泉 蓮

ムバラク大統領退陣の一報が伝わると、カイロ中心部のタハリール広場を埋め尽くした群衆はどよめき、続いて歓喜の声がわき上がった。肩を組んで踊り出す若者、抱き合いながら涙を流す母子。打ち振られる無数の国旗。その中で、白髪の男性が身動き一つせず、天を仰いでいた。

「貧しき多くの人の、美しくしき多くの夢を…」と髯（ひげ）ある人が二たび三たび声を張り上げて、あとは涙の体（てい）である。灯（ひ）に写る戦車にもたれたる直（なお）き背（せ）の、この時少しく前にかがんで、両手に抱（いだ）く膝頭（ひざがしら）に陰（けわ）しき山が出来る。声を得て声を続（つ）ぎ能（あた）わざるを恨（うら）みてか、黒くゆるやかに引ける眉（まゆ）の下より安からぬ眼の色が光る。「声出せども成らず、行動すれども成らず」と思ったものを。広場に飛び出して天下晴れて歓喜の声を繰り返す。

興奮冷めやらぬ中から落ち着き取り戻しし一人の男、演説台に登りて即興の曲を披露す。

ムバラク治世の30年

抑圧された日々

苦しかったろう

だが、独裁者はもういない

自由を取り戻した今日

兼ねて覚えたる歌詞にて即興なれど曲を間に合わすつもりか。剛（こわ）き髪を五分（ぶ）に刈りて髯貯（たくわ）えぬ丸顔を傾けて「歌えども、歌えども、現実なれど、歌えども、表しがたし」。

我々の新たな時代が始まると高らかに歌い了（おわ）って、涙を堪えながら、笑いながら隣の中なる若者たちを顧（かえり）みる。

「美しく多くの人の、美しく多くの夢を……」と膝抱（ひざいだ）く男が再び吟じ出すあとにつけて「裸の王様は去った。ホワイト革命の賜（たまもの）を誰が導かん。ナイルの賜（たまもの）と呼ばれし沃土（よくだ）を贈らん国民に」と。女は態（わざ）とらしからぬ様（さま）ながらちょと笑う。

これから民主主義の根付くのか。四分五裂して過激派が台頭するのか。西側の諸国は案じつつ、しばらくは現内閣を暫定内閣として機能させ、国際条約を順守すると発表した軍最高評議会の出方を窺うこととなる。



カイロのタハリール広場で11日、ムバラク大統領の退陣を祝う市民たち。退陣後、軍の装甲車に上って喜び合う市民たち。退陣を知り大喜びする家族連れ。退陣に沸く市民たち=越田省吾撮影。退陣を祝う市民たち=ロイター。【朝日】

< 参照 > 夏目漱石「一夜」